

# 札幌の繁栄を見渡す高台の墓地、 移転後の跡地は公共施設に

## 開拓の翌年に墓地造成 を決意

白石村の人たちが入村直後にすべきことと決めていたのは、(1)鎮守としての神社を建立すること (2)子弟教育のための学校を建てること (3)死者埋葬のために墓地の敷地を確保すること - の3点だった。

儒教教育が根付いていた当時としては、年寄りを敬い、先祖を大切にすることは非常に重要なことだったので、自分たちの生活の目鼻もつかない時期とはいえ、墓地を確保するのは重要課題だった。

旧暦の明治5年2月27日付けで、次の文面で開拓使開墾掛あてに墓地の割り当てを認めてほしい旨の嘆願書を提出している。

### 24、25番地間の空き地を希望

「恐れながらお願いいたします。白石村に入植した100戸の住居はすべてできあがり、各人の家に住むことができました。しかし、お墓を立てる場所がなくて困っています。みんなで相談した結果、24番地と25番地の間に土地の割り当てから除かれた間口約20間(36疔)の土地があります。この土地は、平地から急に曲がりくねった高台になっているために畑を作れる見込みがありません。そこで村の道路から60間(約70疔)奥に入った場所に左右とも奥行1丁(約110疔)を限りに墓地に使わせていただきたくお願いします。」

実際に許可された時期は明らかでないが、この嘆願書の欄外に「願のとおり地所を検見のうえ割渡しする」と書かれ、付箋紙の立会者の私記には「5年7月18日雨、昼ヨリ晴、埋葬場見立テ、同道普請」と書かれているから、この直後に許可されたものと思われる。

墓地はまもなく造成された。現在で



昭和30年代の白石中央墓地。先祖が見下ろす丘は火山灰丘陵地である

も当時のまま小高い丘になっていて、周囲が見渡せる。子孫の繁栄する様子を一望できる場所として選んだ理由がしのばれる。

### 人口が増え、移転へ

右上の航空写真を見ても分かるように、昭和30年代までは一面の畑が広がっていたが、札幌の都市化が白石まで及び、昭和40年代には市街地のなかに墓地がある状況になった。

そのため昭和41年に区画整理が実施され、墓地の一部が平岸霊園に移転改葬された。昭和47年には全地が移転の対象となり、墓碑587基のほとんどは里塚霊園に移転改葬された。

現在、墓地の跡地の丘には勤労青少年ホームと白石温水プールがあり、多くの市民に親しまれている。敷地内には墓地があったことを示す石碑が設置されている。

(武田清晃)

